



^ 13
3108
2



門 13
3108
2

丁後而再借

鳥の... 三編

昭和九年七月二三日

鳥居宗行

復讐 奇談 稚枝鳩 卷之二

東都

曲亭馬琴著編

鳥居宗行

第三編

逸鷹と索と所を夫良縁と締
楓井を脱く字九郎庇覆と承

鳥居宗行

榎逢所を夫良縁と締... 一徐の阪陰の亭とて梯のどく... 千人の巖石の烟礮と

佳支鳥

して杖と入る小さうなり。えれが一丈と云ふなりと云ふ。万乗も
越ぐ。一日ををさるれば百年險阻と云ふ事なり。これぞと云ふもかく
九代所を夫の終日山中と徘徊と云ふ事なり。これぞと云ふもかく
日もゆくゆく傾ぬる事なり。人々の大なる事なり。終日山と
つらんと云ふ。時乾のくまの事なり。昔はりれば九代所と云ふ
所分今ぞと云ふ事なり。準備の練多と云ふ事なり。何れぞと云ふ事
綜緒きれく。この事なり。花去と云ふ事なり。所を夫これと云ふ事
汗。この事なり。忙る時。一隻の事なり。彼も成退と云ふ事
杖の梢は花をさる事なり。九代弓は箭ついでと云ふ事なり。そ
て丁と射と云ふ事なり。響の夫と云ふ事なり。撲地と云ふ事なり。所
りく。響の声。裕と云ふ事なり。止まりり。所を夫これと云ふ事

く走りよりて。この事なり。是と云ふ事なり。常の雨の時雨船はして
ある事なり。第法をゆいて響も傷くことなり。やぐて箭と振と
拳と云ふ事なり。ねと云ふ事なり。所を夫これと云ふ事なり。そ
九代と顔と云ふ事なり。援臂將軍鳥朝の事なり。射の強弓と云ふ事
笠徳袴射と云ふ事なり。保元の合戦の事なり。大庭景能と射と云ふ事
日の事なり。の上野朝村の事なり。普光園右大臣の事なり。小と云ふ事
と云ふ事なり。可憎武士と云ふ事なり。深山の事なり。只音
嘆賞と云ふ事なり。逐ら連と云ふ事なり。湯が湯と云ふ事なり。准
高倉の附物と云ふ事なり。九代これを受と云ふ事なり。それ
えより利と云ふ事なり。今戦國の時と云ふ事なり。君の命と云ふ事
別款と云ふ事なり。百貫の知れと云ふ事なり。ある事なり。



一羽の鷲とて人々。百金の恩賞あづかる事。天啓をむけりといひ
 て。いふさくむきども受に。やうやくそのうらみあひの今を収められ所
 をまきひくその清貧と稱讃し。くらく。足下の宮を鹿鹿の若
 あり。いくでるかる村落の世をたくりあふれ。が主尾子長久の。陽枝石
 見。伯耆の世と管帳。武蔵中園をかやり。それが。不肖といふ
 ども。足下のあふ吹奏と人。とや。所を却れ。義久。つ久子孫の
 榮を。とらう。あへ。薦られ。九代。としてその額と拵。とら。辞
 して。いく。好意と。お似れども。それ。元より仕官と。な。一子あ
 り。と。ふ。も。これ。えん。せ。別。世。ま。ま。ド。も。お。う。れ。ハ。命。は。後。い。は。じ
 と。い。ふ。所。を。夫。且。く。沈。吟。し。極。極。と。つ。く。言。平。亦。も。傳。れ。も。そ
 れ。が。も。楠。徳。氏。の。と。ま。く。足。下。と。同。姓。あり。あ。い。う。人。の。家。の。因

あり。も。あ。ら。う。に。頑。児。勇。躬。といふ。その。今。茲。十。三。歳。ふ。ま。り。
 り。諸。の。き。を。を。堪。ひ。の。り。足。下。二。人。の。息。女。の。う。ら。人。と。や。い。ひ。と
 つ。て。成。長。の。ゆ。ら。頑。児。は。妻。合。せ。る。が。あ。家。の。好。と。結。ぶ。べ。い。く。許。
 あ。ふ。れ。や。とい。ふ。九。代。の。の。り。お。の。ま。一。個。の。不。簡。も。あ。ら。ね。が。妻。も。か。り
 せ。か。き。津。の。年。も。剛。く。ま。も。恰。利。だ。れ。が。是。と。雲。及。つ。ら。れ。た。不。誠。定
 一。婚。嫁。の。事。既。に。結。ひ。な。れ。所。を。夫。女。と。う。ら。び。十。月。廿。日。の。朝。ま。は。た。は
 か。き。津。と。伴。ひ。く。啓。け。せん。の。時。は。九。代。一。口。の。緩。刀。と。う。お。か。の
 ち。あ。き。津。よ。示。して。つ。く。は。あ。既。に。十。一。歳。あ。ま。ば。版。と。喫。と。飢。飽。と
 知。り。衣。と。着。く。室。暖。と。知。り。よ。く。む。あ。あ。今。父。が。い。ふ。こ。の。心。
 の。人。夫。女。ハ。三。界。不。家。あり。百。年。の。苦。樂。他。人。よ。う。れ。とい。う。道。身。成
 業。の。ち。勇。躬。と。や。らん。妻。と。あ。ふ。和。漢。の。負。女。と。繼。ぎ。て。よ。く

佳支書

卷之二

三

操とつらむべし。此の劍は、吳蛇の化し、さるふまゝして、此の命の捉
 まるが。今これと与ゆる。されこの劍とて、より。事よ臨みて、変せざ
 る。此の短刀の、げうと聲と、霞し。く。吼ること、蛇の泣ごとく。今此
 身と、此のつらむも。この名劍の、徳より。て。事速に、変し。より。む
 一六條、延尉の、我がの時、源氏三代、鬼丸、珠切の、名劍、一、と
 甚し。鬼丸の、吼る、声の、響き、あや、似る。珠切の、吼る、音の、響き、蛇の、泣き、似る
 とて、鬼丸と、神子の、名と、改名し。珠切と、吼丸と、号られし。故に
 と、呼ぶ。い。まが、此劍も、亦、吼丸と、名づけ、たり。此の、今より、この、吼丸と、名
 佩く。や、く。弁財天の、利益と、依り、べし。武士の、妻の、言、優し。く。
 こゝろ、割る、と、より。し。は、我より、より、命も、と、むべし。此の、所
 名、まごの、心、これ、思ひ。より、孝養と、竭し。あ、へ。が、賊、此の、一、條の

此の、かゝり、と、教、諭し。く。は、短刀と、違ふ。し。られ、ば、お、き、津、ハ、思、と、
 ろ、あ、も。父が、教、訓、心、魂、を、徹、ら、ん、涙、ぐ、と、て、ぞ、居、り、なる。母、ハ、人、さ、
 ら、る、し、く、して、つ、や、く、その、も、え、い、つ、ね、が、千、も、後、を、も、友、を、よ、は、く、彼
 榎、山、の、四、も、の、ま、う、れ。一、鳥、ま、う、飛、く、青、を、ま、の、も、む、が、く、し。か、く、て、新
 ち、夫、ハ、九、代、交、婦、を、辞、し、し、う、れ、時、毎、ぐ、う、の、ち、と、推、考、お、き、津、と、傳、ひ、て
 ま、く、雲、州、お、ぞ、う、り、なる。正、小、是
 只、憑、一、對、一、作、良、媒、不、用、千、金、為、厚、聘、と、い、ふ、類、あ、ら、び、こ、の、下、は、後、
 光、陰、ハ、白、駒、の、隙、と、さ、る、が、く、く。ま、や、く、も、八、九、年、の、早、と、後、と、傳、へ、
 大、所、十、九、歳。千、も、十、八、歳、と、さ、り、ふ、り、る。九、代、が、妻、ハ、吳、松、と、い、ひ、
 お、き、津、お、き、津、れ、と、い、ふ。と、り、く、ま、あ、い、は、さ、り、今、後、四、十、あ、の、り、の、下、は、
 後、さ、り、く。死、出、の、旅、活、小、致、れ、し、れ、ば、九、代、が、歎、け、い、さ、り、なる。千、も、後、を





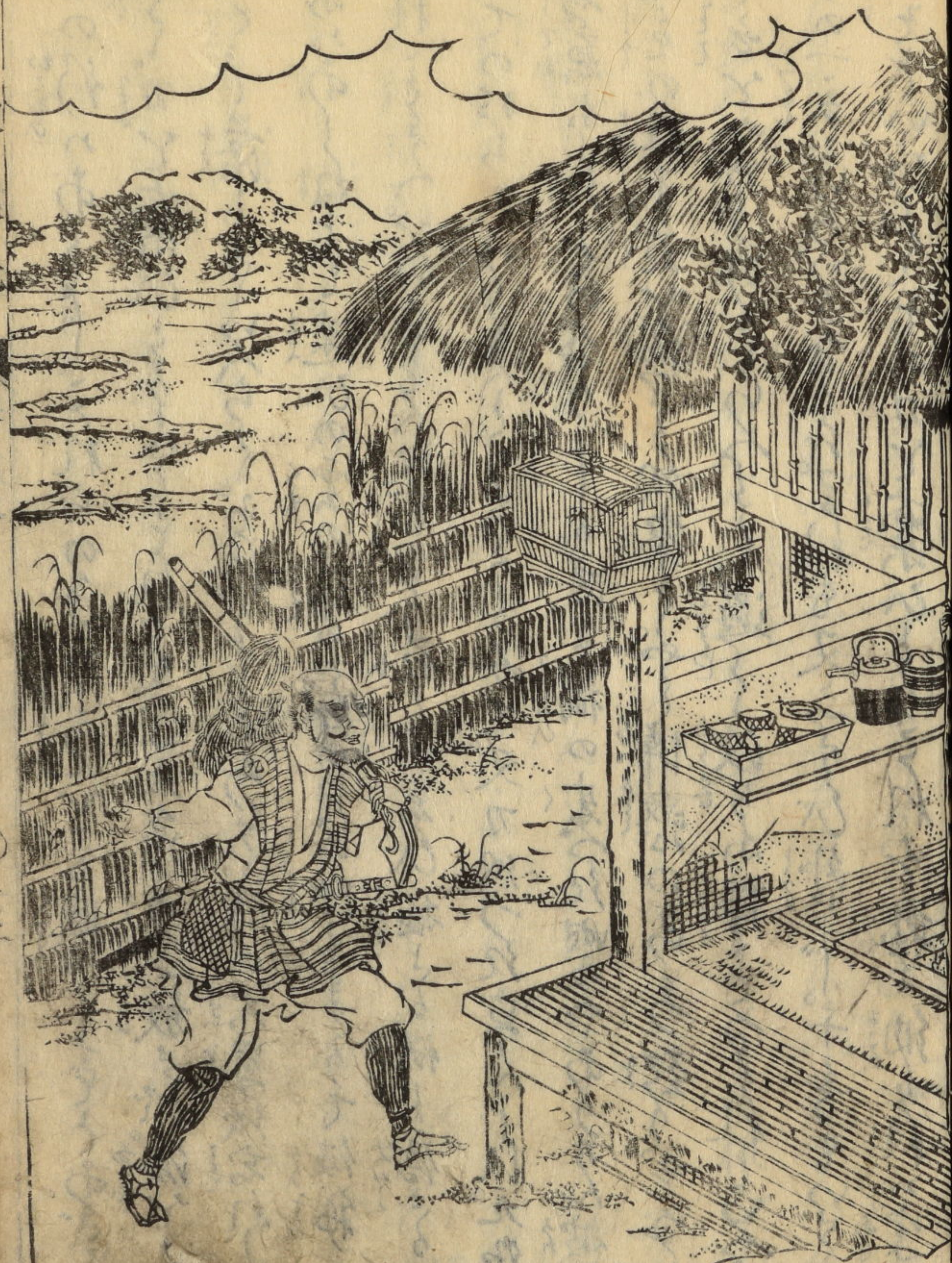
芝くつろく。足下とらふおと一合つるはるが怪し。それ一枯あり
 とあひたぐらふ。可惜仕伎と一あべれは。妙けまわをせし足下の
 くら足るが月の幸福あり。あふぬ里は今ひく。さぞかうくおがさうら
 又縁うもれ老るが。余雨のりともおひきまご。とまれくまれ今宵さ
 家一夜とわく一あうと。いと懇よはえりま。字九郎はあふらふ
 枯槁の雨さ。小あふららして。遂に九郎は傷れ。その夜湯が沸きて
 到り。

第四編

楮縫九郎ハ殖粟字九郎とけいしうてこの夜の事を千巻楼から
 おもわがり。權く字九郎とまらひおれぬ字九郎ハ今かくとるおれ

恩と絶し〜九作横死と遭ふ。
 義は伏し〜後太復讐と圖る

ありとて。さうくさふ足と〜めま〜く。よろ川高宴やふつ〜おれ
 九郎はさゆ〜憐して世業のい〜不彼もを武蔵と散へ〜思のど
 くいつく〜祝おま来あり。苗おれり。日綾をさゆ。父よ〜やま
 り〜む〜年財天夢想の示現。馬と鞍と吉あり。人と得〜出
 あり〜新〜あひ〜九の字い〜と〜く〜とあり。人と〜て仇とよ
 む〜つ〜つ〜子〜活〜あ〜の〜な〜と〜を〜や〜も〜忘れ〜あ〜い〜あ〜人
 と〜あ〜い〜あ〜ぞや。今彼と遊〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い
 登〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い
 お〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い
 つ〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い
 と〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い



今の初めありし。これらのあつた小児とも威づるもとわさ
 笑く。刀と棄ひしとんとそれども。字九郎更に放たば涙を
 らくと落しし。つら。それうまう。昨の大恩に忘れ
 とのあつたねども。迷ひの雲の隔ち。心の月の隈もまうて。飯神の
 ざれしと人づいふ言あ。死んと多し極る。仍し傷るハ
 死ての初らふ初りあ。とうらう。みて。又刀はつた立人と。九作
 ハ思ふふたものありし。が。あは禍のま。死時あやありし。彼が
 顔色の既死と極る。瓜察と。や。憐愍のさう。起り。とあハ
 ら。云とやうけし。過。改。小憚とあれし。うり。
 今の一云ふらう。あ。これ。も又。さ。び。外。千ももい。さ
 恨。といひ。その刀と棄ひし。これを。納。たれ。字九

郎。ま。威。涙。を。と。あ。う。あ。う。く。と。の。あ。の。茶。犯。を。悔。千。も。い。か
 不。心。も。と。ま。り。れ。ど。父。の。云。い。あ。が。く。赤。き。高。と。た。抱。つ。て。外
 面。あ。あ。字。九。郎。ハ。九。作。を。斬。課。せ。く。つ。く。お。う。く。これ。む。う
 の。あ。あ。う。が。案。ホ。親。子。と。奴。僕。も。つ。ら。べ。た。あ。あ。う。い。あ。く。さ。う。と
 ば。と。被。と。昨。匠。も。殺。し。れ。彼。何。ん。な。れ。と。思。は。れ。く。これ。を
 畜。生。と。あ。う。り。も。遮。莫。これ。あ。ぐ。あ。あ。を。留。め。り。ま。案
 ホ。ま。う。た。目。だ。せ。く。今。の。憤。と。し。と。と。べ。し。か。い。定。ん。悪
 念。ま。い。く。増。長。し。て。ま。う。ま。の。計。と。ま。い。それ。より。四。五。日。終。く
 九。作。を。流。り。る。ハ。ま。きの。ハ。南。の。岸。あ。て。鶴。の。巢。と。見。ゆ。う。ぬ
 巢。の中。に。雛。三。つ。も。四。つ。も。あ。り。し。と。これ。と。捕。ら。う。た
 價。は。つ。べ。し。と。ま。い。と。し。か。あ。い。九。作。と。言。て。ま。あ。う。と

雑文鳥

新木九

十五

ひ。そのれ行く捕来るべし。路ハ極く険阻の化又巢をつくるもの
 之。約延篁と鶯よ。割菴とよる。智多結腰よつけし。ちり
 だらして。遊よ字九所し。小南の峯よとせり。字九所ハ元
 うり。わし。ゆれ。虚とあま。彼首の嶺ありし。足首の祖ありし。かどい
 ひく。彼方い。方と細継。一。殊よけ。い。谷。ふ。あ。り。て。路。ハ。彼。下
 の。措。小。あり。と。指。九。作。これ。と。嶺。あり。と。崖。の。と。よ。峰。と。その。巢
 と。ん。と。伸。上。り。成。字。九。所。後。より。九。作。と。横。地。と。突。所。と。九。作
 ハ。から。つ。も。心。と。か。く。も。と。と。う。さ。ま。小。閃。と。と。字。九。所。分。裂。と。路。中。の
 上。より。考。と。掘。む。字。九。所。裂。と。と。う。れ。て。あ。ら。な。ま。り。ぶ。さ。忽。ち。う。ら。が
 又。引。倒。され。と。と。小。礫。と。墜。り。り。が。その。め。い。四。又。尺。下。の。礫。ま。ま。る。の。
 項。と。と。と。警。介。と。な。れ。が。九。作。ハ。路。中。と。掘。あ。ら。う。終。よ。千。仞。の。谷。底

小。溜。り。微。塵。と。碎。と。み。り。り。多。字。九。所。ハ。本。の。根。よ。ま。が。り。付。と。
 怪。有。の。命。助。り。し。が。も。足。の。皮。と。掘。中。で。痛。は。が。り。れ。ど。か。く。て
 あり。ん。れ。よ。何。と。秘。ハ。葛。の。根。後。の。蔓。又。た。ら。り。付。ら。し。て。崖。の。と。小。え
 い。や。り。流。れ。と。掬。と。瘡。口。と。あ。ら。ひ。居。る。小。嶺。の。と。より。懸。丈。二
 二人。来る。音。も。も。ら。ら。り。懸。た。野。禽。の。聲。小。傷。ら。れ。と。ま。よ。その。ま
 と。匿。と。と。と。腰。と。捺。足。と。汗。瘡。を。老。の。い。と。逃。去。り。り。この。日。後。を
 年。ハ。初。と。和。本。大。隅。坂。の。辺。よ。む。れ。と。晡。時。ハ。天。城。山。と。越。身。ま。し
 ハ。南。の。阪。陰。又。血。の。こ。ぼ。と。と。る。あり。鹿。の。踏。血。と。又。と。ハ。傷。口。と。拭。い
 たり。と。つ。え。と。と。摘。と。と。と。草。の。葉。の。紅。よ。深。と。と。も。あ。と。ハ。何。と。あ。く
 ころ。懐。と。その。血。と。あ。ら。ひ。と。南。の。と。け。入。ま。り。崖。の。上。よ。血。溜。り
 て。谷。底。よ。み。り。り。人。あり。懸。これ。と。と。と。小。南。又。九。作。よ。り。背。され。と。



来て仲邊かろうらうらひ終いぢど一采の糧けうとぞかいふらり。ある夜よ綾あや
 ち高千もよ告つひくいらく。され原もと際ぎわ綾あや氏のし見こえとら人ひとども。再また
 生の恩おんとあひひてこのあい人ひととるれば九く代だいどの父ちちなり舅おやうい之し
 降くだり匠しやうなり。ある色いろは仇かたき人ひと字な九く代だいがゆくと索たづねうこと雪ゆきとら
 あんぐらぶ。あられも元もと來きたは三さんの田でん園えんもももど坐ざして食くへふも空くら
 しくればはあは初はつれよのと流ながる。あいらんもも心こころしあ平ひら
 なるが神あまのおまは神かみをたぬありて氏うぢ士の妻つまとありあ人ひとが夫つま物もの
 彼かの國くにより子こ行ゆけあこの凶まふら事ことは若わか者ものあうせ。二ふたつおははあはと赤あかをら
 がるが城しろとのまあは。ゆ安やすく仇かたき人ひととら子こむやとおひふ。持もたら
 字あや九く代だいハ秋あきの人ひとありとあいらんももあまは西にしと臨かみて都みやこくふ首くび途みち
 あり。このあいらんももあひあうといふ。平ひらをらうらうらまの志あつ念ねんとあいらんもも
 うれととあいらんももあひあうといふ。平ひらをらうらうらまの志あつ念ねんとあいらんもも
 つら。いいらんももあひあうといふ。平ひらをらうらうらまの志あつ念ねんとあいらんもも
 へとらもせ。今のほぐとありあいらんももあひあうといふ。平ひらをらうらうらまの志あつ念ねんとあいらんもも
 薦すすけ色いろは綾あやを高たか千ちとらあひあうといふ。平ひらをらうらうらまの志あつ念ねんとあいらんもも
 親子おやこ三人さんにん位ゐりあいらんももあひあうといふ。平ひらをらうらうらまの志あつ念ねんとあいらんもも
 たり。この耐た天下てんか久ひさしくあひあうといふ。平ひらをらうらうらまの志あつ念ねんとあいらんもも
 陸りくもも通つう路ろ自じ由ゆうありあひあうといふ。平ひらをらうらうらまの志あつ念ねんとあいらんもも
 三百さんひゃく張せんより一ひとつ斗との粟あわを換かひあひあうといふ。平ひらをらうらうらまの志あつ念ねんとあいらんもも
 つたていふもせんあひあうといふ。平ひらをらうらうらまの志あつ念ねんとあいらんもも
 のが神あまをたぬあひあうといふ。平ひらをらうらうらまの志あつ念ねんとあいらんもも
 う人ひと氣きつとあひあうといふ。平ひらをらうらうらまの志あつ念ねんとあいらんもも

へとらもせ。今のほぐとありあいらんももあひあうといふ。平ひらをらうらうらまの志あつ念ねんとあいらんもも
 薦すすけ色いろは綾あやを高たか千ちとらあひあうといふ。平ひらをらうらうらまの志あつ念ねんとあいらんもも
 親子おやこ三人さんにん位ゐりあいらんももあひあうといふ。平ひらをらうらうらまの志あつ念ねんとあいらんもも
 たり。この耐た天下てんか久ひさしくあひあうといふ。平ひらをらうらうらまの志あつ念ねんとあいらんもも
 陸りくもも通つう路ろ自じ由ゆうありあひあうといふ。平ひらをらうらうらまの志あつ念ねんとあいらんもも
 三百さんひゃく張せんより一ひとつ斗との粟あわを換かひあひあうといふ。平ひらをらうらうらまの志あつ念ねんとあいらんもも
 つたていふもせんあひあうといふ。平ひらをらうらうらまの志あつ念ねんとあいらんもも
 のが神あまをたぬあひあうといふ。平ひらをらうらうらまの志あつ念ねんとあいらんもも
 う人ひと氣きつとあひあうといふ。平ひらをらうらうらまの志あつ念ねんとあいらんもも



匍匐くもくの風情ふうせいゆく去さる里さとの宿しゆくを同どう押おれぬ人ひとも月つきとよ
 せまき。邪見よみの杖つゑ又また遊あそばられ。幽谷ゆうこくの石いしを枕まくらとして。夜よの夜より
 とくくと曉あけの鐘かね冷ひやしく。郊原きょうげんの草くさを網あみと志こころをく。朝開あさひらの煙けむり
 くるんて。そ陽ひかりも死しんとほ。どどくも。都みやこまで。来きぬ。都みやこを
 富人とみひとも多おほりれば。且まく。又また。又また計はかりもあへば。けと。夫婦ふうふ門かどよ。ち樹きよ。と。す。僅わずか一ひと錢せん
 と。乞こふ。と。人ひとども。対たいして。人ひと都みやこと。も。あ。と。く。お。く。人ひとも
 あ。赤あかき。高たかの。今いま。二ふた歳さいあり。母はは乳ちち汁じゆ出いで。見みる。肉にく
 脱骨だつこつあ。られ。啼なき。泣なき。あ。れ。ぬ。ま。ば。父ちち母ははの。あ。の。乳ちち湯ゆ
 たり。と。り。ゆ。く。見みる。玉たまの。緒いとの。ま。れ。や。せ。ん。と。愁うれひ。多おほく。
 時ときハ。三さん伏ふくの。夏なつの。日ひされ。酷く暑しよ。赫くとして。汗あせま。れ。眼め眩くら死し。
 洛西らくせい山やまの。麓ふもとの。藤ふじの。涼すず月つき橋はしの。辺へり。今いまの
 一ひと歩ふも。運はこび。ぐ。ぐ。いと。悩なやま。げ。こ。り。れ。の。綾あやを。高たかく。も。つ。ん。る。ふ。志こころの
 ひど。ま。れ。ま。づ。彼か首くびの。里さとを。ゆ。れ。て。一ひと握にぎの。飯いと。と。ま。さ。る。べ。し。
 内角うちかくは。且まく。あ。ふ。愁うれひ。多おほく。千ち手て赤あかき。高たかと。松まつの。南みなみ小
 路みち。あ。れ。む。と。り。臨川りんせん寺でらの。と。と。と。と。は。い。ゆ。れ。ぬ。上藤かみふじ



復讐言小説稚枝鳩卷之二畢

切
書
物

書
屋

書
屋

通
古
記

行
記